



“うめきた” に近未来がやってきた!

2年後に控えた大阪・関西万博。パビリオン建設の遅れなど心配ですが、万博に向けて、大阪の各地では開発が進められています。その中の一つが大阪駅のある梅田の北側、通称“うめきた”エリア。以前は貨物駅だったため、一等地であるにもかかわらず賑わいとはかけ離れた存在でした。

さて、そんな“うめきた”エリアの玄関口としてこの3月に新設されたJR大阪駅のホーム・改札が、『近未来』だ!とちょっとした話題に。実際に近未来を味わいに行ってみました。

<その1>【世界初! フルスクリーンホームドア】

今回の開業の一番の目玉だといわれる「フルスクリーンドア」。天井までガラス張りで多様な列車のドア位置に合わせてドア自体が左右に自在に動くそうです。目玉! 挟み込み事故を防止する3Dセンサー搭載など機能はハイテク。そのドアには現在、主に電車の運行情報が映し出されていますが、広告などにも活用されるようです。



↑地味だけど高機能な新しいホームドア

<その2>【大画面に大阪を感じる! ? インタラクティブウォール】

コンコースには14mに高さ3.3mにわたって壁一面にスクリーンや液晶ディスプレイのエリアが出現。水都・大阪のイメージとして水中で魚が泳ぐ映像や、大阪・関西万博のPR映像が流れており、一緒に写真を撮りたくなるビジュアルは観光客のSNS発信でも活躍してくれそうです。



↑一番“大阪”を押しているインタラクティブウォール

<その3>【近未来感バツゲン! 顔認証ゲート】

一番の話題になっているこのSF感満載のゲートはマスクもOKな顔認証改札です。

まさに“顔パス”で改札を通れるこのシステム。現在は実証実験中でICOCA(関西のICカードシステム) 定期利用者がモニター応募することで使用できるとか。それ以外の人もICカードをかざせば通れる、ということでしたので私もチャレンジしてみました。“顔パス”ではありませんが、側面の画面の光と表示、足元に映し出される矢印が近未来感バツゲンでした。

まだまだ人通りの少ない出口のため観光客の反応は見られませんが、万博の時には大阪のPRに一役買ってくれると期待しています。

(筆: 綾部)



→顔認証ゲート
足元の表示にも注目です

